

1 学校経営グランドデザイン

令和7年度 村山市立楯岡小学校 学校経営 グランドデザイン

□憲法及び
教育関係諸法
□こども基本法
□学習指導要領
□第7次山形県
教育振興計画
(2025-2034)

＝学校教育目標＝

志 感動 笑顔

じぶん・なかま

よむ・かく

きく・はなす

～自らの志の実現を目指し、社会の中でよりよく生きる子供～

平成30年度制定・令和7年度一部改訂

□村山市教育
基本目標
□村山市教育振興
計画(2025-2034)
□児童の実態と志
□楯岡小の歴史と校風
□地域・保護者
・教職員の願い

令和7年度 教育スローガン

3 COMS

Community

Comment

Communication

コミュニティ形成力

コメント力

コミュニケーション力

自分で・自分たちで 考える 決める 行動する **TATE-SHOW PRIDE**

社会に教育課程
を開き
学校評議員制度や
地域等の特性を
生かした
教育の推進

道徳教育(道徳科)と
特別活動(学校活動)を
全校共通で一体的
推進・充実させた
学校社会づくり

学校教育目標で目指している「たてやまっ子」の姿

**志
感動
笑顔**

…自分の夢や希望の実現のため、仲間や他と積極的に繋がりながら努力を続ける (自主・知)
…たくさんの本を読み、自分の心の動きを表す言葉を増やし、文章に書き表す (自立・徳)
…仲間や他の話を自分から進んでよく聞き、自分もよく話し、豊かな人間関係を築く (共生・体)

目指す子供像

子供一人一人が自らの生活・学習に
「楽しく！」取り組む たてやまっ子

- 1 “自分で学ぶ、ことが「楽しい！」
- 2 “自分たちで学ぶ、ことが「楽しい！」
- 3 “大人と一緒に学ぶ、ことが「楽しい！」

目指す教職員像

“チーム楯小”は「フォア・ザ・チーム楯小！」
学校・学年全体が子供一人一人の担任団・応援団

- 1 “子供と創る、日常生活と授業を中心に
- 2 “子供と故郷を愛し、魅力を発見・発信
- 3 “誰とでも積極的に関わり、協働して励む

学校・学年・学級全体で子供主体の学校社会・生活・学習をつくる

志

じぶん・なかま

知

問題解決力

○自らの夢や希望の実現のため、
仲間や他と積極的に繋がり合う
「**コミュニティ形成力**」
を身に付ける

感動

よむ・かく

徳

感じる力

○たくさんの本を読み、自分の心
の動きを表す言葉を増やし、文
章に書き表す経験を積み、
「**コメント力**」を磨く

笑顔

きく・はなす

体

人と関わる力

○仲間や他の話を自分から進ん
でよく聞き、自分もよく話し、
「**コミュニケーション力**」
を身に付ける

◎楯岡小学校6年間の学び、一貫性ある子供目線の「楯小スタンダード8」確立

- 1 教育の「不易」と「流行」を見極めながら「令和の楯岡小学校型教育」を実現
- 2 学校研究を核とした「学校生活づくり」と「実効性のある授業改善」による学力向上
- 3 「道徳」と「特別活動」を両輪とした自主・自立・共生の学校・学年・学級づくり
- 4 「生活科・総合的な学習の時間」の充実による探究・創造・表現・発信する学習活動
- 5 「特別支援教育・教育相談」の充実（特別支援学級と交流学級の綿密な連携、
不登校・不適応等児童に応じた指導、家庭や関係機関等との連携）
- 6 「読書活動」の充実（各教科等との意図的関連、市立図書館との
連携、読み聞かせ等を通して、児童個々の探究心をくすぐる）
- 7 「幼稚園・保育園・こども園、学童保育等」との連携
- 8 「楯岡中学校区（西郷小・袖崎小・楯岡中）、楯岡地域・
大倉地域市民センター等の関係機関や諸団体等」との連携

学校経営の重点

職員室テーマ①
和・話・環・笑・輪
5つのWA
(わっか)

職員室テーマ②
フット・ネット
3つのWORK
(わくわく)

2 学校経営の概要

令和 7 年度(2025) 学校経営の概要

村山市立楯岡小学校

◎ 令和 7 年度楯岡小学校教育の根幹

「新型コロナウイルス禍」における教育課程・教育活動のPDCAサイクルの確立には、多大な苦労が伴った。その間、GIGAスクール構想による教育環境整備は、大幅な前倒しによりICT教育環境の完全整備が実現し、児童一人1台PC端末による教育が当たり前となった。さらに教育DX化の推進、教育データ等を活用した授業方法や形態等の大変革と個別最適な教育の実現…というように、数え上げればきりがないうほどの“大改革”で実現された教育が、今、学校現場で行われている。このことは、コロナ禍前の教育を経験し、そしてコロナ禍とコロナ禍明けの3局面を経験した者にしか、その苦労には残念ながら共感できないと感じている。

振り返れば、一昨年5月のコロナ禍明けからの1年間は、社会全体も学校教育現場も必死にコロナ禍前に戻すことと、コロナ禍明けの新しい社会や教育に強力にシフトすることの両方の実現を目指して大人たちは取り組んできた。将来を担う子供たちのため、予測不能な未来社会を生き抜く力を確かに育む教育の実現に向けて、必死に取り組んできた。

しかし、そのことは大人（特に教職員や保護者等）が考えるほど、子供たち、子供一人一人にとって、決して簡単なことではなく、コロナ禍が明けて、ほぼ2年が経過した今もお、もがき、苦しんでいる子供とその保護者が一定数存在すると感じている。

コロナ禍前までの子供たちは、物心付いた乳幼児期から小学校就学前まで、その発達段階に応じて時にはゆっくりと、時には速く、時には激しく…様々な経験を通して、社会のルールやマナー、豊かな人間関係を築くためのコミュニケーション力など、気付かぬうちに実に多くの力を身に付けていたのだと考える。しかし、コロナ禍の子供たちはそのことを身に付けるタイミングを失ったまま、今に至っているのではないかと感じる子供が実に多い。

いよいよ令和7年度は、1～6年生まで全在籍児童が、コロナ禍前の学校を知らない、もちろん経験していない世代となった。実はこのことは、教職員も同じことが言える。近年、本校には毎年2名ずつの新規採用教員と複数名の講師・助教諭の配置があり、県費・市費教職員の異動は、令和4年度から令和6年度までは3分の1、令和7年度に至っては約20名、職員の5分の2が入れ替わり、コロナ禍前に勤務していた教職員はほんのわずかである。つまり、児童にとっても教職員にとっても3～5年のブランクは非常に大きく、このように大きな変化に対して緩やかに、そして適切に対応していくことは必至なのである。

そこで本校は“世の中や教育の「不易」と「流行」を的確にとらえながら、「守・破・離」そして「未来志向」と「挑戦」を大切にして歩み続け、人口の減少が心配される本市に“教育で人を迎え入れることのできる「マグネット・スクール」を目指した学校づくり”一層励む一年とすることを確認するものである。

令和7年4月1日 村山市立楯岡小学校教職員一同

I 学校教育目標

学校教育目標

こころざし
志

かんどう
感動

えがお
笑顔

じぶん・なかま

よむ・かく

きく・はなす

～自らの志の実現を目指し、社会の中でよりよく生きる子供～

平成30年度制定・令和元年度一部改定

学校教育目標が目指す「たてやまっ子」の姿

志	自分の夢や希望の実現のために、仲間や他と積極的に繋がりながら努力を続ける	(自主・知)
感動	たくさんの本を読み、自分の心の動きを表す言葉を増やし、文章に書き表す	(自立・徳)
笑顔	仲間や他の話を自分から進んでよく聞き、自分もよく話し、豊かな人間関係を築く	(共生・体)

令和元年度から取り組んできた学校教育目標に対する“3つの「あ」”については、多くの子供たちに根付いてきている。令和7年度はさらに一歩進めて、教育スローガンとともに、より具体的な行動を提示して、全ての児童と教職員が一丸となって学校教育目標の具現化を進めていきたい。

Ⅱ 子供一人一人に育てたい資質・能力

学校教育目標

志…じぶん・なかま

問題解決力

コミュニティ形成力

感動…よむ・かく

感じる力

コメント力

笑顔…きく・はなす

人と関わる力

コミュニケーション力



Ⅲ 目指す子供像

子供一人一人が自分の生活学習に「楽しく！」取り組むたてまっ子

☛キーワードは「楽しく！」（自分で・自分たちで、そして大人も一緒に）

1 “自分で学ぶ、ことが「楽しい！」

- ・学ぶこと自体が楽しい（振り返り、成長する自分の実感）
- ・見方・考え方を働かせて学ぶことが楽しい
- ・自分事としてとらえて、考える、解決する、新しく発見することが楽しい

2 “自分たちで学ぶ、ことが「楽しい！」

- ・自分と異なる意見も取り入れて、より良い学びを得ることが楽しい
- ・仲間とともに学ぶことで可能性が広がるのが楽しい
- ・仲間とともに課題について話し合い、解決していくのが楽しい

3 “大人と一緒に学ぶ、ことが「楽しい！」

- ・子供と大人が一緒になって授業をつくる・学習することが楽しい
- ・大人から得られる学び、語りや雰囲気、過去も未知の世界も知ることが楽しい
- ・大人に教わる知識が、経験を通して知恵となり実となり技となるのが楽しい

Ⅳ 目指す教職員像

“チーム楯小、は、「フォア・ザ・チーム楯小！」

学校・学年全体が子供一人一人の担任団・応援団

- 1 “子供と創る、日常生活と授業に対して、常に課題意識をもち、自己研鑽に励む教職員
- 2 “子供と故郷（楯岡・大倉、村山、山形、日本、世界…）を愛し、魅力を発見・発信する教職員
- 3 “誰とでも（子供、保護者、地域、諸関係機関、教職員同士…）と積極的に関わり、協働して励む教職員

V 学校経営の基本方針 全児童がコロナ禍明け世代、真の令和の楯岡小型教育の実現

世の中や教育の「不易」と「流行」を的確にとらえ、
「守・破・離」そして「未来志向」と「挑戦」を大切にして歩み続ける
～教育で人を迎え入れる「マグネット・スクール」を目指します！～

- 1 強く、豊か、そして、しなやかに「“生き抜く力＝学力”を身に付ける」学校づくり
(1) 実効性のある日常の授業改善と充実を図る「令和の楯岡小学校型教育」の構築
(2) 子供が自ら育つ教育実践のために学び続ける「フォア・ザ・チーム楯小」の団結
(3) 子供一人一人に確かな資質・能力を育む「カリキュラム・マネジメント」の確立
- 2 心地よく学び、共によりよく生きるための「温かな人間関係を育む」学校づくり
(1) 「社会の仕組み」を学び、「人と人とのつながり」を実感する場
 ☛ 学校生活において子供一人一人が試行錯誤を繰り返しながら、新時代に対応する「社会の仕組み」と「より良い社会創り」とは何かについて実践を通して学ぶ場である。
(2) 『学校いじめ防止基本方針』に基づく教師の意図的・計画的な「居場所づくり」と子供たちの自主的・主体的な「絆づくり」による望ましい集団活動を実践的に学ぶ場
(3) 「生徒指導実践上の視点（自己決定の場の提供、自己存在感の感受、共感的人間関係の育成）」を生かした指導を通して、居心地のよい生活・学習空間を体得する場
- 3 教職員が“生き生きと”働き、子供に「志・感動・笑顔」をもたらす学校づくり
 「和・話・環・笑・輪の5つのWA(わっか)」と「フット・ネット・チームの3Work(わくわく)」
(1) 教職員が「生き生きと学び・働く姿」を示し、その姿を通した子供一人一人への教育
 ☛ 「働き方改革タスクフォース」による確かな提言と確実な実践
(2) 生徒指導・教育相談・不登校等に対する日常的な「研修と対応、積極的な指導」
 ☛ “最も困っているのは当事者である子供”であるとの視点に立ち、未然防止、迅速かつ適切な初期対応、保護者に寄り添い、大切な子供を共に育てる良好な関係を築く。
(3) 「ワーク・ライフ・バランス」の取れた働き方・生き方の推進と「人間力」の高まり
 ☛ 「仕事は、目指せ3割！ 要所1割!!」 “ゆとり（A・S O・B A）”が好結果を生む。

VI 学校経営の重点

◎楯岡小6年間の学び、子供目線で一貫性のある「楯小スタンダード8」確立

- 1 教育の「不易」と「流行」を見極めながら「令和の楯岡小学校型教育」を実現
(1) 全学年で毎年学級・担任替えを行い、新しい環境で学年経営と学級経営の充実を図る。
(2) 学年・特支担任の一人一人が、在籍児童全ての担任として情熱をもって教育にあたる。
 ※学級担当とは、子供・保護者等の窓口の主担当としての位置付けである。
(3) 日常の授業におけるICT機器活用や教育手法を最大限生かした教育の充実を図る。
(4) 文房具の一つとしての一人1台の「PCタブレット」を最大限に生かした学習と生活づくりに取り組ませる。
- 2 学校研究を核とした「学校生活づくり」と「実効性のある授業改善」による学力向上
(1) 特別活動における「話し合い活動」の充実を通して、自分たちでよりよい学校生活を創る子供を育成する。
(2) 「一人一人が課題意識をもって話し合い活動に参加する工夫」と「互いの考えを認め合い、よりよく合意形成を図る工夫」の対話的な学び」の二つの視点に基づいた話し合い活動の充実を図る。
(3) 日常的に授業を見合う、見せ合う開かれた授業研究を通して、ベテラン教員のもつ教育・指導技術と若手教員の教育・指導意欲の融合を図り、現職教育研修を充実させる。
(4) 村山市の重点施策「いい授業づくり」実践プロジェクトと連携し、指導力向上を図る。

- 3 「**「道徳」と「特別活動」を両輪とした自主・自立・共生の学校・学年・学級づくり**
 - (1) 学級における「道徳」と「学級会と当番・係活動、集会活動」の確実な実践を図る。
 - (2) 学級での実践を生かし、より大きな集団（学年や学校全体）で行う「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」で試し、発揮し、自主・自立・共生の力を伸ばす。
- 4 「**「生活科・総合的な学習の時間」の充実による探究・創造・表現・発信学習活動の充実**
 - (1) 各教科等で身に付けた資質・能力を生かし、試し、発揮する場として機能させる。
 - (2) 「餅は餅屋」積極的に地域や専門家に学びの場を求め、子供はもちろん、教師も共に学ぶ姿勢を大切にする。
- 5 「**「特別支援教育・教育相談」の充実（特別支援学級と交流学級の綿密な連携、不登校・不登校傾向・不適応等児童への適時で適切な指導と対応、家庭や関係諸機関等との連携）**
 - (1) 特別支援教育コーディネーターを中心に、「**「楯岡小特別支援教育スタンダード」**」を積極的に活用し随時更新を重ねながら、常に現状を把握、教職員間の連携、情報の共有を大切にして組織的に対応する。
 - (2) 指導方針・個別の指導計画などについて、特別支援学級と交流学級担任が、各家庭と共通理解を図り、一人一人の困り感に適切かつ誠意をもって対応する。
 - (3) 特別支援教育の理解と指導力を向上させるために、校内研修体制を整える。
- 6 「**「読書活動」の充実（各教科等との意図的関連、市立図書館との連携、読み聞かせ等）**
 - (1) 各教科等の学習や生活と関連させ、「**「情報センター」**」として学校の中心に位置する「**「学校図書館（たてやま図書館）」**」を全校児童が集うオアシスとなる環境づくりに努める。
 - (2) 「**「村山市立図書館」と「はやま号」**」、「**「PTA 家庭サポート部と保護者ボランティアによる読み聞かせ」**や「**「読書ボランティア」**」等と連携した読書活動を推進する。
- 7 「**「幼児教育施設（幼稚園・保育園・こども園等）、学童保育施設等」との連携**
 - (1) 個々の発達や人間関係、家庭等の課題により特別な支援を必要とする児童に関する指導情報を必要に応じて共有しながら、児童個々のよりよい生活づくりに寄与する。
 - (2) 1年生ではカリキュラムの弾力的な運営を行い、小学校生活や学習に適応し、安定した教育活動ができるようにする。
- 8 「**「楯岡中学校区、楯岡地域・大倉地域市民センター等関係機関や団体等」との連携**
 - (1) 「**「楯岡中学区連絡協議会」**」での連携内容を全職員が共有できる体制を整え、基本的な生活リズム・学習習慣等の育成に努める。
 - (2) 楯岡地域では「**「〇〇公民館学校」**」、大倉地域では「**「大倉地域市民センター学校」**」などを学年や学級単位で開設、積極的に地域に出向き、郷土のひと・もの・ことを学ぶ。

VII その他 （地域社会に生きる人づくり）

- 1 「**「たてやま運動」**で明るくさわやかな学校づくり ―平成15年度児童会制定―

た	え	ない	笑顔で	あい	さ	つ	名人
て	き	ぱ	き	働	く	し	ごと
や	さ	しい	心で	しん	せ	つ	名人
ま	い	に	ち	さわ	やか	げん	き
ま	い	に	ち	さわ	やか	げん	き

○自分で・自分たちで考えて、決めて、
行動する（時間と場所の確保も含む）

○児童会主体の取組として一層推進

- 2 **楯岡小のシンボル「楯山」と「楯岡・大倉」地区の財産（ひと・もの・こと）を生かした教育活動**

○楯山を知る・感じる・親しむ …教科や総合・生活、特活、楯山の散策、四季…

○楯岡・大倉を知る・感じる・親しむ…自然、歴史、活動、産業、地域性…

※教職員が積極的に出向き、必要に応じて職員研修を行い地域教材を開発する

- 3 **特設特別活動の継続推進と将来的に持続可能な地域移行体制の確立**

○「特設特別活動」として位置付けてきた下記の部・クラブについて、楯岡小の歴史と伝統を継承しつつ、時代に即した持続可能な教育活動として地域移行体制を確立させていく。

□合唱部（R5～地域と協働） □ブラスバンド部（R4～地域、クラブ活動併用）

□陸上部（R5～地域と協働） □居合道クラブ（クラブ活動として地域と協働）